



SEASON



秋

テーマ:秋の夜長は「日本の文化」に親しもう!

今回は日本の文化についての本を紹介します。
2020年の東京オリンピックに向けて、世界中の注目が日本に集まっています。
日本に住んでいる皆さん、あらためて「日本の文化」を見つめてみましょう!

『ここがスゴイよ!ニッポンの文化大図鑑』

名作マンガ100でわかる!』 1巻~5巻

ニッポンの文化大図鑑編集委員会/編 日本図書センター

歌舞伎、落語からアイドル、アニメまで、古(いにしえ)から今日(こんにち)の日本の文化と、それぞれの文化を題材にしたマンガが紹介されています。

『日本の音』 コロナ・ブックス編集部/編 平凡社

四季があり自然豊かな日本に住む私たちは、古くから様々な「音」に敏感に反応し、それを絵や歌で表現し、また「音」によって癒されてきました。この本では日本の伝統が生みだした音の表現を、日本画、浮世絵などに探ります。

『江戸文様こよみ』 熊谷博人/著 朝日新聞出版

庶民が文様のついた着物を着られるようになったのは、今から300年ほど前の江戸時代から。当時の生活や伝承に基づいた文様は現代まで脈々と受け継がれています。文様の世界を、それらを育んだ当時の暮らしと共に紹介します。

『和の色のものがたり 歴史を彩る390色』 早坂優子/著 視覚デザイン研究所

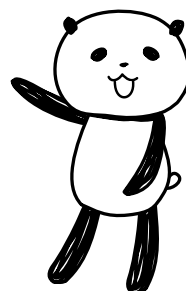
日本には、貴族文化で発達した鮮やかな色や、「ねずみ色」に代表される江戸の庶民文化から生まれた色など、とてもバリエーション豊かな「色」があります。この本では各時代を彩る390色を、わかりやすく紹介しています。

『大切にしたい、にっぽんの暮らし。』 さとうひろみ/著 サンクチュアリ出版

私たちの生活の中で、四季折々の行事や自然についてまとめたものを「歳時記」といいます。お正月に子ども達が楽しみにしている「お年玉」も、本来の意味がわかるともっとありがたく感じます。歳時記のある暮らしを楽しむための入門書です。

『ぼくたちのアニメ史』 辻真先/著 岩波書店

今では、「日本のアニメ」は立派な「日本の文化」です。初期のテレビアニメ作品の脚本を手がけた著者が、テレビアニメの魅力を語っています。



パンダの私にも
日本の文化が
わかるっちゃあ
(和 culture)